

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人

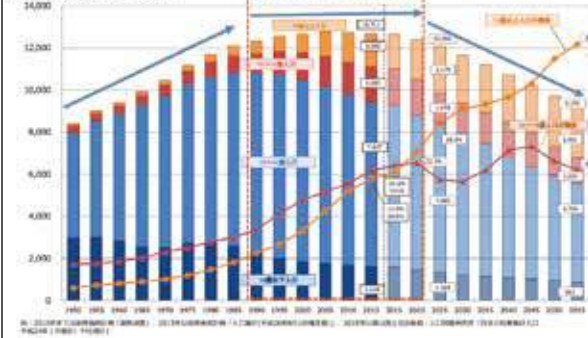
祐愛会織田病院

ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室

責任者 織田 正道

年齢階級別人口推計



私が育った昭和の時代は、日本は目覚ましい経済発展と共に、人口も増加の一途でした。よって、日本の病院も国民皆保険のもと、病床を増やし、多くの患者さんを受け入れ、量的拡大を続け大病院志向が強まった時代でした。とりわけ地域におけるブランド病院は高度急性期を担う大型の官公立病院でした。また、患者さんの多くが若い世代が対象であり、まさに「治す医療」の時代でした。

そして平成になり、人口は徐々に横ばいから減少になり、少子高齢化が進み、高齢化が顕著となり、医療を取り巻く環境は大きく変わりました。そのような変化の中においても、当グループは、大きく飛躍することができました。それは規模が大きくなったと言うことではなく、高齢化の進展に伴う変化に柔軟に対応し、近未来の地域医療の一例として全国に発信できたからです。

昭和から平成、そして未来に向けて、しなやかに生き残る 『2019年グループ方針』

社会医療法人 祐愛会織田病院 理事長 織田 正道

2019年、元号では平成最後の新年を迎えました。当法人スタッフの3割近くが平成生まれですから、若い人々には特別な感慨があると思います。

さて、この平成の30年間で、少子高齢化が顕著になり、医療を取り巻く環境は大きく変わりました。そのような変化の中においても、当グループは、大きく飛躍することができました。それは規模が大きくなったと言うことではなく、高齢化の進展に伴う変化に柔軟に対応し、近未来の地域医療の一例として全国に発信できたからです。

私が育った昭和の時代は、日本は目覚ましい経済発展と共に、人口も増加の一途でした。よって、日本の病院も国民皆保険のもと、病床を増やし、多くの患者さんを受け入れ、量的拡大を続け大病院志向が強まった時代でした。とりわけ地域におけるブランド病院は高度急性期を担う大型の官公立病院でした。また、患者さんの多くが若い世代が対象であり、まさに「治す医療」の時代でした。

そして平成になり、人口は徐々に横ばいから減少になり、少子高齢化が進み、高齢化が顕著となり、医療を取り巻く環境は大きく変わりました。そのような変化の中においても、当グループは、大きく飛躍することができました。それは規模が大きくなったと言うことではなく、高齢化の進展に伴う変化に柔軟に対応し、近未来の地域医療の一例として全国に発信できたからです。

私が育った昭和の時代は、日本は目覚ましい経済発展と共に、人口も増加の一途でした。よって、日本の病院も国民皆保険のもと、病床を増やし、多くの患者さんを受け入れ、量的拡大を続け大病院志向が強まった時代でした。とりわけ地域におけるブランド病院は高度急性期を担う大型の官公立病院でした。また、患者さんの多くが若い世代が対象であり、まさに「治す医療」の時代でした。

そして平成になり、人口は徐々に横ばいから減少になり、少子高齢化が進み、高齢化が顕著となり、医療を取り巻く環境は大きく変わりました。そのような変化の中においても、当グループは、大きく飛躍することができました。それは規模が大きくなったと言うことではなく、高齢化の進展に伴う変化に柔軟に対応し、近未来の地域医療の一例として全国に発信できたからです。

- ① 地域に選ばれる病院づくり
- ・急性期医療の充実し、効率的で、質の高い医療の提供を目指すと共に、退院後もケアの継続が図れるように地域の医療機関や介護サービスと連携して在宅医療を全面的にバックアップします
 - ・地域に選ばれる病院づくり
 - ① 急性期医療の充実
 - ・新規入院患者3300名以上の受入れ体制強化
 - ・救急患者受入れ体制のさらなる強化
 - ・かかりつけ医との連携強化（紹介入院患者増）
 - ・平均在院日数短縮化に向け入院支援・調整を強化する
 - ・DCU (Dementia Care Unit) を充実し、成果を示す
 - ・ICTを積極的に導入し、業務改革を図る
 - ② 地域包括ケアシステムを医療面でバックアップ
 - ・在宅患者の見取り体制構築を本格化（かかりつけ医と連携し、ACP・人生会議を啓発推進）
 - ・在宅医療支援体制 MBC(Medical Base Camp) を進化させオンライン診療を本格化
 - ・医療と介護情報の一元化・共有化する
 - ・他業種（OPTIM等）とのコラボレーション本格化
 - ③ 医療の質向上を目指して
 - ・TQM(Total Quality Management) 推進

- ② スタッフに選ばれる職場づくり
- ① 「働き方改革」を本格化
 - ・タスクシフト・タスクシェアなど業務の効率化推進、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める、ワークライフバランスの更なる推進
 - ② 看護師「特定行為」の包括化に向け、指定研修施設としての対応を図る
 - ③ グローバルナースの育成・育成
 - ④ セイフティーマネジメント（医療安全、院内感染防止）の更なる向上
 - ⑤ 海外研修の充実
 - ⑥ Pali Moni Medical Center (ハワイ) 研修プログラムの充実
 - ⑦ 地域包括ケアシステムの実現
 - ① 介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援機能の充実
 - ② 回転率10%以上、在宅復帰率50%以上、稼働率95%を維持する
 - ③ 地域の医療機関との連携強化
 - ④ ショートステイの効率的運営
 - ⑤ アウトカム重視し、リハビリ機能の充実を図る
 - ⑥ 訪問看護サービスは医療と一体化を推進・在宅医療支援体制 MBC(Medical Base Camp)と一体化を図る
 - ⑦ 在宅患者の見取り体制構築を本格化（かかりつけ医と連携し、ACP・人生会議を啓発推進）
 - ⑧ 各事業を機能的に連携する
 - ⑨ 認知症ケアサービスの稼働率70%をめざす
 - ⑩ 認知症ケアサービス・小規模多機能・居宅系施設・老人保健施設の統括的連携
 - ⑪ 人材採用・育成のための専属部門開設
 - ⑫ 介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修の強化
 - ⑬ コミュニケーション能力の向上・笑顔と挨拶の徹底する
 - ⑭ 外国人介護スタッフの教育・育成の強化
 - ⑮ スタッフに選ばれる職場づくり
 - ⑯ 「働き方改革」を推進本格化
 - ・業務の効率化推進、時間外勤務の短縮、年次有給休暇取得を進める
 - ⑰ ワークライフバランスの更なる推進
 - ⑱ 子育て支援・介護支援の充実
 - ⑲ ねむりキャン導入、夜間見守りの充実
 - ⑳ セイフティーマネジメント（転倒転落防止、院内感染防止）の更なる向上
 - ㉑ 「ゆうあい社会福祉事業団」の事業独立

介護保険事業と人口推計

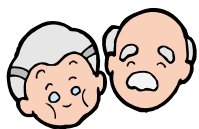
ゆうあいビレッジ施設長 千々岩 親幸

介護保険は3年に1度の改定が行なわれ、昨年からは第7期の介護保険事業計画が施行されました。改定の年の新年度が始まるまでには各自自治体が事業計画を策定しなければなりません。鹿島市は杵藤地区広域市町村圏組合に属し広域で介護保険行政を行なっています。介護保険事業計画を策定するためにはその圏域の人口構成が重要になるため、改定の年には人口統計の推計が行なわれます。推計は3年間だけではなく、数年先まで行なわれ具体的な数字が示されているので、圏域内の人口がどのように変動するか昨年のデータを参考に述べてみます。

杵藤地区広域市町村圏組合に所属する自治体は、人口が多い順に「武雄市」「鹿島市」「嬉野市」「白石町」「江北町」「太良町」「大町町」となっています。圏域内の総人口は2018年153254人、2020年149655人、2025年140418人と減少し、来年は15万人以下となり2025年以降は14万人も切る予測となっています。人口は各年代別に推計されており、0～14歳、15～39歳、40～64歳、前期高齢者、後期高齢者の5年代に分け

られています。全世代が減少傾向なのですが、特徴的なことは2018年から2020年にかけては前期高齢者世代のみ増加、2020年から2025年にかけては後期高齢者のみの増加が推測されていることです。ただし問題は増加人数で、前期高齢者165人の増加に対して後期高齢者の増加は1806人となっています。前期高齢者が少なく、認定率は3%程度です。将来的には前期高齢者世代の方はさらに活動的で健康であることが予測されるため、この世代の人口増加は介護保険サービスへの影響が小さいと思われます。このような推計から、第7期の介護保険事業ではサービスの増加はほとんど行なわれていません。私たち介護保険事業者からすると、サービス利用者数が減少する可能性もあるため対策が必要となってきました。しかし、2025年を迎える第9期の頃には、後期高齢者が今期より1806人増加すると推計されています。後期高齢者の要介護認定率は急激に上昇するため、第9期では介護保険サービスを利用される方が急激に増加する可能性があります。

要介護者の増加は各介護度の方が増加するわけではなく、具体的には2020年から2025年にかけては要介護1が257人、要介護5が104人増加し、他の介護度は2桁の増加となっています。要支援の方はあまり増加せず要支援1は逆に減少が見込まれています。そのため杵藤地区の介護保険事業計画では2025年には介護サービスの増加を計画していますが、その内容は今期と比較すると小規模多機能型居宅介護が30～40%増加、訪問看護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護が倍増となっています。これは今後の介護保健サービスが在宅へシフトしていく方向性の表れと考えられます。祐愛会はほとんどの介護サービスを有しており、将来の様々な介護ニーズの変化に対応可能ですが、在宅における介護の質の向上には介護・医療の一層の連携が重要になるため、当法人の利点を活かして将来に備えたいと考えております。



5回目の「病院機能評価」更新認定を受けました

病院機能評価準備委員会 村吉 英樹

当院は、1998年6月15日に佐賀県初の病院機能評価認定病院となりました。初回認定から20年目を迎えた2018年6月に、主たる機能種別「一般病院1」を適用した更新審査を受け、5回目の認定を受けることができました。

病院機能評価とは、患者さまや地域住民の方が適切な医療を安心して受けることができるように、公益財団法人日本医療機能評価機構から派遣されたサーベヤーが、多方面にわたって医療機関の調査・評価を行うものです。今回は「病院機能評価審査…機能種別版3rd Ver20」を受審し、機構が定める認定基準に達していることが認められ、2018年9月7日付けで認定証が交付されました。

評価対象領域は、次の4領域となっています。

- 1「患者中心の医療の推進」

患者の視点に立った良質な医療を実践するうえで求められる病院組織の基本的な姿勢や、患者の安全確保・医療関連感染制御に向けた病院組織の検討内容・意思決定について評価

2「良質な医療の実践1」
病院組織として決定された事項

が、診療・ケアにおいて確実・安全に実施されていることを評価

3「良質な医療の実践2」

確実に安全な診療・ケアを実践するうえで求められる機能が各部門において発揮されていることを評価

4「理念達成に向けた組織運営」

良質な医療を実践するうえで、基盤となる病院組織の運営・管理状況について評価

現在、全国8389病院のうち2184病院が認定を受けており、佐賀県では当院を含め24病院が認定されています。

今回の審査結果は「S評価5項目、A評価74項目、B評価9項目、C評価無し」で、前回よりも高い評価を得ることができました。この結果に慢心することなく、今後もすべての領域で改善に取り組み、医療の質を高めるとともに、患者様に快適に過ごしていただける病院を目指して更なる努力を積み重ねていきたいと思います。

↓ 2018年審査結果 ↓



「看護師特定行為研修
第1期生修了報告」

教育担当師長 市丸 徳美

平成30年10月15日、看護師特定行為研修第1期生の修了式が行われましたのでご報告致します。

当院は、県内初の看護師特定行為研修指定機関として認定を受け、平成29年10月から第1期生5名を受け入れ、研修を開始致しました。カリキュラムは、共通科目である臨床病態生理学・臨床推論・フィジカルアセスメント・臨床薬理学・疾病臨床病態概論・医療安全学等eラーニングを中心とした講義・演習・実習による315時間、区分別科目「術後疼痛管理関連―硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整―」は院内の先生方を講師とする講義・演習、麻酔科外来・手術室・救急外来等における実習による21時間で構成されました。

運営に際しては、特定行為研修管理委員会の院外構成員として佐賀大学医学部卒後臨床研修センターの江村 正准教授にご助言を頂きながら、診療看護師の山本晶子教育担当師長の指導により1年間の研修を滞りなく終えることができました。これもひとえに皆様方のご支援とご指導によるものと心から感謝申し上げます。

今後、研修修了者の活動においては、看護師特定行為研修のファシリテートの役割を担うとともに、臨床看護の場面で術後疼痛管理はもとよ

り種々の看護場面でこれまでの学びを大いに生かしてほしいと思います。

看護師特定行為研修修了
第1期生

鶴丸(旧姓岩屋) 直子さん

谷口繁樹さん

筒井久美子さん

西岡葉子さん

増田恵理子さん

看護師特定行為研修を終えて

4階病棟看護師 増田 恵理子

私たち研修生5名は、平成30年10月を以って看護師特定行為研修を修了しました。この1年を振り返ると、「毎日1講義eラーニングを聴く事」を自分に課したものの思うように進まず、集合研修前に大慌てをしたり、課題に行き詰まって落ち込んだりしたこともありましたが、また、問診・身体診察実習の時、学習した知識を総動員して「今回は完璧！」と自信を持って報告しても、指導者の質問に答えられずに撃沈・・・。「次こそは！」の繰り返し。指導者から「やればできるじゃない。」と言われた時は、「やっとなクリアだ!!」と達成感を感じ、その後の実習が面白くなっていききました。

私が、こんな日々を頑張りが続けたのは、自分自身の諦めない強い思いと、共に学ぶ仲間や、応援し支えてくれたスタッフのお陰です。修了式で、織田理事長から修了証書を

頂いた時の充実感は今までに感じたことの無いもので、この先も忘れることはできないと思います。

現在私たちは、第2期生の研修のファシリテーターを努めています。1年かけてインプットした知識・技術を臨床で深めて、アウトプットする機会だと捉えています。今後は、医学的知識を備えた信頼される看護師として認めてもらえるように頑張ります。第1期生5人の活躍に期待とエールを贈ってください！

第17回ゆうあい公開セミナー
多職種から学ぶ褥瘡サポート

3階病棟 吉村 彩香

平成30年10月11日、鹿島市エイブルにて「他職種から学ぶ褥瘡サポート」と題して市民公開講座を開催しました。

それぞれ専門の立場から、(皮膚科 永田先生「褥瘡の基礎知識について」、形成外科 平川先生「褥瘡の評価と治療について」、野田皮膚・排泄認定看護師「褥瘡予防のためのスキンケアについて」、福地理学療法士「ポジショニングについて」、測管理栄養士「褥瘡と栄養について」講演を行いました。

参加者からは、「いろんな面からのアプローチで分かりやすい内容だった」「何回か参加しているが毎回わかりやすい内容で勉強になる」「難しい点もあるが、日々の業務に活かしていきたい」「すばらしい取り組みで感動した」などの意見をいただきました。

当院は在宅医療推進事業の一環として、「褥瘡」に関する市民公開講座を4年前から毎年開催しています。今回の市民公開講座は過去最高の参加者数で、年々褥瘡に関心を持つ人や、褥瘡のケアで悩んでいる人が増えていくことが実感されました。褥瘡の管理は、地域と病院が連携して、「継続したケア」を提供することが必要です。少しでも褥瘡で苦しんでいる方やケア・介護を担当されている方のお役に立てるよう、これからも取り組んでいきたいと思っています。

第18回ゆうあい公開セミナー
多職種から学ぶ嚥下サポート

耳鼻咽喉科 医師 西嶋 利光

当院の嚥下サポート委員会は、「入院期間中の看護やケアを、退院後の施設や自宅でも継続できること」を目的として、福祉サービス事業所のスタッフや一般市民の方々を対象に、「多職種から学ぶ嚥下サポート」というテ

ーマで、地域勉強会を毎年開催しています。

今回は2018年11月14日水曜日に第18回ゆうあい公開セミナーとして開催し、「摂食・嚥下の基礎」「口腔ケアの重要性」「明日からでもできる嚥下訓練」という題名で、当院の耳鼻咽喉科医師、看護師、言語聴覚士が講師となり、多職種の視点から講演を行いました。当日は、地域の病院・施設のスタッフ、一般の方を含め、約190名という大勢の方にご参加していただき、スタッフ一同感謝しております。

講演後のアンケートでは、昨今の高齢化を反映してか、「認知症患者に対する嚥下サポート」にまつわるご質問を多数いただきました。今後の公開セミナーで、これらのご質問に対しても出来るだけの情報発信を行っていきたいと考えております。今後も皆様のご参加をよろしくお願い致します。



第二回 未来創造会議を開催して

経営企画室 安部 伸和

平成30年11月10・11日の2日間、武雄市にある黒髪少年自然の家で、第二回未来創造会議を開催しました。今回の研修対象は入社3年目から5年目の職員とし、織田病院から13名、ゆうあいビレッジから10名の計23名が参加し、スタッフ10名が研修グループリーダーとして同行しました。

研修の初めに、参加者を4・5人ずつのグループに分け、不慣れなコンパスや地図を利用して約3時間のオリエンテーリングを行いました。

天候も良く、きれいな紅葉などの風景を眺めながら、健康的な時間を楽しめたのではないのでしょうか？

みんなで入浴、夕食を済ませた後、「各チームのオリエンテーリングの結果（順位）について検討する」をテーマに、グループワーク（以下、GWM）を行いました。GWMでは、同じチームとしてチェックポイントを探しながら山の中を3時間も一緒に歩き回ったことで、一気に親密度が上がり活発な意見交換が行われていました。夜はアルコール入りの懇親会で盛り上がり、久しぶりに二段ベッドで就寝しました。

二日目は、伊山院長が未来創造会議の目的とコミュニケーションやリーダーシップについて話をされた後、各グループに、昨日まとめた問題点や改善策について発表してもらいました。



さらに、「今回の研修で学んだことを、今後の職場でどのように活かしていくか」というテーマで、参加者全員に個人スピーチをしてもらいました。発表者は緊張した様子でしたが、職場における今の自分を見直し、今後のあるべき自分について考えた素晴らしいスピーチばかりでした。最後に伊山院長からの総評があり、2日間の研修は無事終了しました。

研修終了後のアンケートでは、「今まで受動的だったが、能動的に動き出そうと思うようになった」、「部署内のチームワークをもっとよくしていきたい」、「全員にリーダーシップが必要なことがわかった。日常の身近なことにリーダーシップを発揮して

未来創造会議に参加して

事務 本田 伸雄

いきたい。」など、積極的な意識の変化に関する意見が多く、充実した研修会になったと思います。今後、各人がチームの一員として物事を考え、自分の役割をみつめて積極的にリーダーシップを発揮していただけるように期待したいと思っています。

平成30年11月10日11日に開催された未来創造会議に参加しました。

初日、各グループに分かれ、オリエンテーリングを行いました。地図やコンパスを使い進んでいきましたが、使い方がまずかったのか、現在地が分からなくなり、隣町の伊万里に行ってしまった。iPhoneのマップを使い、なんとか帰り着くことができましたが、迷ったことが響き、全グループ中最下位という結果になってしまいました。

2日目、「オリエンテーリングで優勝するためには」というテーマでグループワークを行い、問題点や改善案をまとめ発表をしました。そして最後に個人スピーチを行い、全日程を終えました。苦手意識のあったグループワークや発表、スピーチは上手いかなかったです。自分を変えたいという気持ちを持って挑戦する事はできたので、とても良い経験になりました。

未来創造会議では、コミュニケーション・リーダーシップの重要性を学ぶことができました。ここで学んだことを、職場で活かしていきたいと思っています。

AMAT(全日病院協会) 災害時医療支援活動班報告

3階病棟 新宮 隼人

平成30年7月13日から14日までの2日間、西日本豪雨で被害を受けた岡山県倉敷市真備地区の災害支援に、織田病院AMATとして医師の松本先生、業務調整員として経営企画部の安部主任、看護師の私の3名が派遣されました。



派遣命令を受け、資機材を準備後

出発しました。通常、当院から倉敷までは、高速道路で6時間程度ですが、豪雨の影響で通行できない所があり、目的地まで11時間を要しました。倉敷市保健所に災害対策本部（通称：KuraDRO）が設置され、朝・夕の全体ミーティングで問題点の確認を行いながら、課題解決に向けて各組織が動いていました。AMATの他にはDMAT、JMATはもちろん、今回より感染対策チームとしてDHEATの参加があり、参加チームは多岐にわたっていました。

われわれ織田病院AMATの主な活動は、新規避難所のスクリーニングおよび医療介入の必要性を判断す

ることでした。派遣時は発災後7日目でしたので、新しく避難所が立ち上がることもあり被害状況はまだ収束しきれていない状態でした。具体的な活動内容は、各避難所の人数の把握、病院へ搬送が必要な避難者がいないかの調査、ライフラインの確認、不足物資がないか等の情報収集、これらの内容を逐一本部に報告することなどでした。派遣時は連日の猛暑日でしたが、6・7割の人たちが日中は自宅の片付けに出かけ、夜に避難所へ返ってくるという過酷な状況で、中には治療が必要な人もいました。われわれが訪問した避難所は100・200人単位の避難所で、部屋は別れていましたが室内の間仕切りはなく、プライバシーの確保は全くできない状態でした。発災から7日目を迎え精神的ストレスも限界にきていたよう、精神的支援の必要性を感じさせられました。

最後に、私自身被災地への派遣は初めてで、たいへん貴重な経験をさせていただきました。災害看護や災害医療を考える良い機会になりました。さらにスキルアップし、災害時のような場面でも、自信を持って活躍できるようにしていきたいと思っています。



全日病ハワイ研修に参加して

3階病棟 諸岡侑子

第42回全日病ハワイ研修に、織田病院・ゆうあいスタッフ9名で参加しました。ハワイに到着すると予想通りの暑さ、バタバタと服を調整し車に乗り込み市内観光へ出発。ホテルまでの道中で、海が望める展望台や有名なカメハメハ像等を見学、常夏の太陽を浴びハワイを実感!!ハワイの町並みや、景色を楽しみながら移動し、夜は懇親会で、ハワイアンダンスを満喫しました。当日は、ハロウィンでカラカウア通りは仮装した人で賑わっていました。人の多さと本格的な仮装に圧倒されながら街歩き、現地の方と写真を撮るなどして刺激的な一夜を過ごしました。2日目は現地で働く医師からアメリカの医療について、看護師の方からナースプラクティショナー(診療看護師)の仕事内容や役割について講義を受けました。アメリカではすでにナースプラクティショナーとして患者の診察・薬の処方・検査オーダーができる診療看護師が多く活躍されていることに驚きました。当院では前年度より特定行為研修が開始されていますが、行為自体に制度の違いを感じました。午後は姉妹病院であるパリモミメディカルセンターの施設を見学しました。同規模の病院でしたが、施設は広大でカ



ートでの移動にもびっくりしました。アメニティは衛生的で安全に配慮されており、プライバシーが徹底的に守られておりアメリカの医療を実感しました。その夜は理事長・洋子先生からマジックデイナーショーに誘って頂き、スケールの大きさに驚きの連続でした。翌日からは潜水艦体験やショッピングを楽しみました。一つ残念だったのは、早起きしたのにバスの乗り方が分からず、ダイヤモンドヘッドで開催されるフリーマーケットに行けなかったこと。次に行く機会があればバッチリ行ける自信は付きました。現地の人が利用するお店に入りハラハラしながら料理を注文する体験や現地の数々の料理を堪能することができ、楽しい時間を過ごすことができました。海外の病院を見学する貴重な機会を頂いたことに感謝いたします。



ゆうあい総合防災訓練

防災委員長 一瀬 隆

平成30年10月25日(木) ケアコートゆうあいにて総合防災訓練を行いました。ゆうあいビレッジでは、「万が一の時に備えて、防災意識を高める」目的で、各事業所ごとに年2回の防災訓練(避難誘導訓練)を行っています。

ケアコートゆうあい療養棟には1階40名、2階40名、合計80名の利用者様がいらっしゃいます。夜間に火災が発生した場合、職員だけで短時間に避難させることは困難であり、地域の方の協力が必要不可欠です。今までの訓練は、「早く避難対象者を建物から屋外へ避難させる」ことを重点に実施していましたが、今回は「火災、避難状況の確実な連絡。的確な避難指示、誘導」を重点に取り組みました。

1階20名、2階20名の合計40名の模擬利用者を設定し、夜間の火災発生を想定して、日没後、ゆうあいビレッジ・織田病院職員と鹿島市消防団(鹿島・能古見分団)43名、鹿島消防署5名、地域住民の方の協力を得て、総勢200名での訓練を実施しました。

災害対策本部と現場との間では、トランシーバーを利用し避難状況などの情報を的確に伝え

る訓練、救護所の看護師による酸素吸入・吸引の準備及び実施、医師による負傷者のトリアージ、重症者の病院への搬送など、各職員にそれぞれ役割分担を設定し真剣に取り組みました。過去の訓練と比べ、今回の訓練では5分程、避難誘導に時間がかかりましたが、「連絡、伝達、指示」の重要性を再確認出来ました。

訓練終了後に鹿島消防署長様、鹿島市消防団長様より、「外部の協力者(消防署・団・地域住民)には、適切な指示を出すようにして下さい。指示がなければ動く事ができず、混乱することになります。施設は、耐火構造になっているので、炎より、煙に巻き込まれるほうが怖いので注意してください。」などのアドバイスをいただきました。

全国的に火災・大雨による水害・土砂災害・地震など想定外の災害が発生しています。いざという時に的確な行動・情報伝達が出るように、また防災意識向上のために、今後も訓練を重ねます。近隣地域の方のご協力を今後共より宜しくお願い致します。



認知症高齢者見守り宣言

ゆうあい介護保険サービス 石井 大輔

平成30年10月11日、織田病院にて祐愛会と鹿島警察署が防犯協力協定を結び、織田理事長が認知症高齢者の捜索などに協力する「地域見守り宣言」を行いました。織田理事長は「85歳以上の高齢者が増えていく中で、共助の仕組みが大切」と述べられ、宣言書を受け取った鹿島署の金嶽署長は「地域の目配りが増えることが安全安心につながる。業務中の『ながら見守り』が重要になってきている。」と話されました。毎日、祐愛会全体で65台の車両が利用者宅や施設への送迎で地域を走っています。徘徊などによる高齢者の行方不明の相談が警察に入れば、警察が把握した情報を祐愛会と共有し、私たちが持っている知識や経験を活かして徘徊が疑われる高齢者を見極める「目」となり、行方不明者の早期発見につなげていきたいと思っています。実際に平成28年6月には、ケアコートゆうあいのスタッフが雨の中にしゃがみ込んでいた高齢者を保護したこともありました。私たちが働く地域の中で、認知症高齢者の方々が少しでも安心して生活を送れる一つの手段になればと思っています。スタッフ皆さんのご協力よろしくお願いします!



新成人おめでとう

- ①成人を迎えた感想は？
②成人してやってみたいことは？
③自己PR

ケアコートゆうあい 3名



宮崎 真理
(2階療養棟)

- ①無事に成人を迎える事ができ嬉し
いです。責任を持って仕事をしてい
きたいです。
②外国に行つて写真をたくさん撮り
たいです。
③笑顔を絶やさずこれまで以上に仕
事を頑張つていきたいです。



木下 朱音
(GH)

- ①一人の大人として行動の一つひと
つに責任を持ち、勉強しながらこれ
からも仕事を頑張つて行きたいです。
②これからのためにしっかりと貯金を
していきたいです。
③元気がだけとりえなので辛い事な
どあつてもしっかりと乗り越えて、こ
れからも元気に笑顔で仕事を頑張つ
ていきたいです。



満岡 咲妃
(サテライト)

- ①実感はないですが、自分の行動に
責任を持ち、社会人としての自覚を
もって行動し何事にも挑戦していき
たいです。
②お酒を沢山、飲みたいです。色々
な所に旅行にいきたいです。
③笑顔を忘れず、今まで以上に何事
も頑張りたいです。

織田病院

9名



溝口 里奈
(3階病棟)

- ①成人したという実感は湧きません
が嬉しい気持ちでいっぱいです。
②旅行をしたり、お酒を飲んだりし
たいです。
③これからも自分らしく頑張ってい
きたいと思っています。



織田 侑希
(3階病棟)

- ①あまり実感は湧きませんがとても
嬉しいです。支えて下さる周りの方々
に感謝の気持ちでいっぱいです。
②お酒をいっぱい飲んだり、旅行を
したり、夜中までカラオケをしたり
など、今しかできないことをし、思
い出をたくさん作っていきたいで
す。



北島 真利那
(3階病棟)

- ③准看護師の資格試験の勉強や仕事
をがんばっていきたいです。
①これまでたくさんの方々の支えが
あつて成人することができ、感謝の
気持ちでいっぱいです。これから
成人としての自覚を常に忘れず、責
任ある行動と人々を思いやる心を持
つて頑張っていきたいと思っています。
②成人を迎えることができたので、
これからは親に頼らず恩返ししてい
きたいです。
③常に元気です。もし落ち込んだり
困った人がいたら私の元気さでみ
んなを元気にしていきたいです。ま
た何事もチャレンジしていきたい
と思います。



山口 樹里
(4階病棟)

- ①あまり実感は湧きませんが、成人
を迎えて様々なことに挑戦できるよ
うになったのでこれからが楽しみです。
また、ここまで支えてくれた周
りの方々に感謝し、成人としての自
覚を持って今後の生活を送りたいと
思います。
②海外や行ったことが無いところに
旅行に行きたいです。
③資格試験は来年になりますが、看
護師目指して勉強や仕事を精一杯頑
張ります。これからもよろしくおね
がいします。



松尾 美沙
(4階病棟)

- ①あまり実感はないですが、これか
ら成人としての責任を持って行動を
していきたいと思っています。また、こ
れまで支えて頂いた家族、周りの皆
さんに感謝したいと思っています。
②今しかできない事が沢山あると思
うのでやっていきたいです。
③まずは、目の前にある准看護師試
験に向けての勉強を頑張っていきた
いです。これからもよろしくお願
いします。



松本 夏海
(4階病棟)

- ①無事、成人を迎えることができ
て嬉しいです。今まで支えてくださ
った両親や周りの方々に感謝の気持
ちでいっぱいです。これから先は、成
人としての自覚を持ち立派な大人に
成長できるよう頑張ります。
②看護師の資格を取得し、色々な事
にチャレンジして行きたいです。
③仕事と学校の両立が出来ると、
メリハリをつけ、元気が出来るさ
で今後も一生懸命頑張っていきたい
です。これからもよろしくお願
いします。



倉崎 真衣
(4階病棟)

- ①今まで以上に自分の行動に責任を
持つていきたいと思っています。
②資格を取得し、色々なことにチャレ
ンジし経験していきたいと思っています。
③これからのことに不安でいっぱい
ですが一生懸命取り組みたいと思
います。
資格取得に向け勉強も頑張りたいと
思います。
これからもよろしくお願
いします。



杉光 七輝
(事務)

- ①実感は湧きませんが、大人として
の自覚を持ち、責任ある行動を行わ
なければいけないと思っています。同
時に、先輩等の模範となれる人にな
れるようこれからも日々精進してい
きたいと思っています。
②日本や外国などまだ行つたことが
ない所へ行き、見聞を広げたいと思
います。
③元氣と笑顔です。
病院の最初の顔として患者様の不安
を少しでも減らせるようにこれか
ら日々の業務に励んでいきます。



増田 亜李沙
(事務)

- ①これまで、20年間自分を支えてく
れた方々へ感謝の気持ちを伝えてい
きたいと思っています。また、成人と
して一つ一つの行動、言動に責任を
持つて仕事に臨みたいと思っています。
②大人になったので、子どもの頃か
らの友達とお酒を飲んで楽しみたい
です。
③高校時代の部活で培った体力と、
仕事で学んだこと、資格取得したこ
とを仕事に活かして頑張りたいと思
います。これからもよろしくお願
い致します。

ゆうあい一座H30年 地域活動実績

- 乙丸公民館・乙丸老人会
(H30.1.10) にわか劇 オレオレ詐欺に気をつけよう
- みやき町コスモス館・鳥栖三養基地区在宅ネットワーク
(H30.1.21) にわか劇 いつまでも在宅で元気に
- 佐賀大学医学部附属病院・日本プライマリ ケア連合学会
(H30.2.4) にわか劇 「おマサの終活」
- 若殿分公民館・若殿分老人会
(H30.3.4) にわか劇 オレオレ詐欺に気をつけよう

- 祐徳温泉・嬉野式浪地区老人会
(H30.3.5) にわか劇 オレオレ詐欺に気をつけよう
- 川内公民館・川内老人会敬老会
(H30.9.16) にわか劇 いつまでも元気で健康体操
- 大殿分公民館・大殿分老人会敬老会
(H30.9.16) にわか劇 いつまでも元気で健康体操
- 家督屋鹿島店・鹿島実高同窓会
(H30.11.10) にわか劇 昭和 50 年代歌謡ショー
- ゆめプラット小城・介護の日
(H30.11.11) にわか劇 介護について

学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(平成30年)

【学会(研究会)発表】

- ・第7回日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会沖縄大会
(1月28日 沖縄男女共同参画センター)
中根知子、大塚拓実、樋渡亮子、森本邦子、岡正倫 「誤嚥性肺炎に関する現状分析と嚥下サポート委員会の取り組みについて」
- ・第13回日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・講習会
(2月4日 佐賀大学医学部)
林愛子、神代修、原和行、織田良正、西山雅則、伊山明宏
「多職種協働での退院支援、在宅生活支援の実践～当院におけるMSWの役割～」
- ・第47回日本慢性疼痛学会(2月16・17日 ホテル阪神)
中平圭「線維筋痛症に対して漢方薬が有効であった症例の検討」
- ・日本医療マネジメント学会第15回佐賀支部学術集会
(2月24日 唐津文化体育館)
原和行「多職種協働での退院支援、そして在宅生活の実践～MSWとしての関わり～」
中根知子「嚥下サポート委員会の取り組みについて」
- ・佐賀県理学療法士会主催 第2回杵藤広域部症例検討会
(3月2日 白石共立病院)
吉田隆宏「人工呼吸器患者のリハビリテーション」
- ・第4回天神会クリニカルカンファレンス
(3月9日 福岡県久留米市:新古賀病院)
織田良正「老年心不全をいかに診るか」
- ・第10回日本臨床外科学会 佐賀支部学術集会in 佐賀
(4月18日 マリトピア)
田中太、中村淳、佐藤建、伊山明宏、織田良正
「術後に横紋筋融解症、DIC、ARDSを発症し重篤な経過をたどった虫垂炎」
- ・日本在宅医学会第20回記念大会シンポジウム
(4月29日 東京:グランドプリンスホテル新高輪)
織田良正「急性期病院と地域を繋ぐ 退院直後のケア～Medical Base Camp:MBC～」
- ・第41回総合診療ケースカンファレンス(5月23日 マリトピア)
大石透「非クロスリジウム性ガス壊疽の1例」
- ・第5回医療介護マネジメント勉強会
(5月30日 広島県福山市:武田薬品福山営業所)
織田良正「治す医療から治し支える医療への転換」
- ・Interop Tokyo 2018パネルディスカッション
(6月14日 千葉県幕張市:幕張メッセ)
織田良正「〇〇×ITのイノベーション～各産業をどう変える～」
- ・第9回プライマリ・ケア連合学会学術大会ポスター発表
(6月16日 三重県津市:三重総合文化センター) 織田良正、多胡雅毅、香月尚子、藤原元嗣、神代修、山下秀一「AI/IoTを用いた在宅見守りシステムの開発～よりよいプライマリ・ケアのために～」
- ・厚生科研磯部班第1回班会議事例説明
(6月23日 東京:御茶ノ水トリエッジカンファレンス)
織田良正「地域で診る心不全 ～病院とかかりつけ医とのタスクシェアの在り方～」
- ・第31回日本疼痛漢方研究会学術集会
(6月30日 東京コンファレンスセンター・品川)
中平圭「高齢者の三叉神経痛において漢方薬により西洋薬を減量できた症例」
- ・第4回地域包括ケア病棟研究大会指定演題
(7月15日 北海道:ロイトン札幌)
織田良正「退院前訪問指導/退院後訪問指導/診療体制について」
- ・第10回佐賀県介護支援専門員協議会研究大会
(7月21日 鹿島市生活生涯学習センターエイブル)
- 原和行「多職種での退院支援を在宅支援に繋ぐ」
- ・佐賀県理学療法士会主催 第1回杵藤広域部症例検討会
(7月27日 白石共立病院)
本村拓郎「椎体圧迫骨折によるクリニカルパスを用いた介入の経験と課題」
- ・第49回日本看護学会-在宅看護-学術集会
(7月27日 佐賀市文化会館)
山本晶子「住み慣れた地域でその人らしく最期まで、を支援する～特定行為研修修了者の実践と育成」
- ・第20回日本病院総合診療医学会学術総会
(9月15日 岐阜市文化産業交流センター)
松藤則子、山下駿、藤原元嗣、多胡雅毅、西山雅則、山下秀一
「セフトリアキソン投与により発生した偽胆石症の2例」
山下駿、牧尾成二郎、黒木和哉、中原快明、多胡雅毅、山下秀一
「喘鳴と呼吸苦を主訴に来院した重症熱性血小板減少症候群の1例」
- ・第60回全日本病院学会in東京
(10月6・7日 グランドニッコー東京台場)
原和行「MBC経過報告」～IoTを活用した在宅室温管理への取り組み～
吉原沙紀、重松かおり「退院支援入力システムの効果的な運用による業務改善」
永石佑香、辻田幸子「DCU(Dementia Care Unit)開設～看護師の気持ちの変化 第3報～」
石橋望、辻田幸子、市丸徳美、山下駿、伊山明宏、織田正道
「Dementia Care Unit(DCU)開設後のアウトカム評価-8つの入院後評価項目による検証-」
本村幹親「MBCにおける訪問リハビリの効果検証～早期介入によるADLの結果」
大塚拓実「当院での誤嚥性肺炎患者の現状分析と嚥下サポート委員会の取り組み」
- ・第63回日本聴覚医学会総会・学術講演会
(10月18日 神戸国際会議場)
中根知子、柴宮夏子、小宗静男、織田正道「高齢者における人工内耳の問題点について」
- ・第22回日本遠隔医療学会学術大会ランチョンセミナー 3
(11月10日 福岡県福岡市:九州大学医学部百年講堂)
織田良正「ICTを活用して、治し支える医療を実現する」
- ・第16回医療法人天心堂志田病院研究発表会
(11月10日 鹿島市生活生涯学習センターエイブル)
吉井朋代「MBC経過報告」～MBC利用者の実績・アンケート結果～
原和行「MBC経過報告」～IoTを活用した在宅室温管理への取り組み～
- ・第20回フォーラム「医療の改善活動」全国大会シンポジウム1
(11月16日 福岡県北九州市:ウェルとばた)
織田良正「治し支える医療の実現に向けて～MBC(Medical Base Camp)の取り組みから考える～」
- ・第42回佐賀総合診療ケースカンファレンス(11月21日 マリトピア)
山口りか「骨折を繰り返した関節リウマチの高齢女性」
- ・第80回日本臨床外科学会総会 in東京(11月22日 グランドプリンス ホテル新高輪)
田中太、中村淳、佐藤建、伊山明宏、織田良正
「術後に横紋筋融解症、DIC、ARDSを発症し重篤な経過をたどった虫垂炎」
- ・糖尿病患者の高齢化を考える会
(11月26日 唐津市:済生会唐津病院)
織田良正「在宅医療における遠隔診療の役割」

【講演・講義】

- ・佐賀大学看護学科講義(1月12日)
市丸徳美「老年看護―介護老人保健施設における看護師の役割」
- ・認知症サポーター養成講座(1月19日 大木庭公民館)
石井大輔 光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!」
- ・全日本病院協会広島県支部 広島県医療法人協会
(1月26日 リーガロイヤルホテル広島)
織田正道「地域医療構想」
- ・訪問看護研修会(1月27日)
小森ヒロ子「在宅小児看護の実際とやりがいについて～私が出会った子供たち～」
- ・第13回九州糖尿病看護スキルアップセミナー(2月4日)
市丸徳美「認知症を持つ糖尿病患者支援の実際～施設看護師の立場から～」
- ・太良町総合福祉保健センター
(2月8日)安武努「働き盛りの肝臓予防出前講話」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義
(2月19・26日、3月5日)
神代 修「社会保障と社会福祉のしくみ」
- ・公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団
(2月23日 ステーションコンファレンス東京602CD)
織田正道「地域包括ケア時代の病院の役割」
- ・佐賀大学医学部5年生脳神経外科病棟実習講義(3月7日)
廣津辰美
- ・短期専門講習(3月9日)
石井大輔「介護記録の書き方」
- ・介護労働安定センター大分支部短期専門講習
(3月9日 三井生命大分ビル)
石井大輔「介護記録の書き方」
- ・第32回鹿島市みんなの集い(3月11日 鹿島市民会館)
織田良正「超高齢社会を生きていくために」
- ・平成29年度第2回認知症対応型サービス事業管理者研修
(3月12日 佐賀中部健康福祉事務所衛生合同庁舎)
北川英俊「適切なサービス提供のあり方について(地域等の連携)」
- ・平成29年度福岡ブロック日本医師会生涯教育講座
第13回「新しい医療」講演会 (3月13日 福岡市医師会館)
織田正道「治す医療」から「治し支える医療」への転換を本格化―遠隔医療これからの展望―
- ・鹿島市生活支援体制整備事業第1層協議体会議
(3月16日 鹿島市交流プラザ「かたらい」)
神代修「鹿島市における医療分野について」
- ・佐賀大学医学部附属看護学校教育支援センター講義
(3月17日)
「在宅医療の推進の推進に向けての退院支援」宮崎豊子
「ケアマネジャーの立場から」
- ・規制改革推進会議公開ディスカッション
(3月27日)TKP赤坂駅カンファレンスセンター)
織田正道『Society5.0に向けた医療の実現について』
「治す医療」から「治し支える医療」への転換を本格化
- ・全国医療経営TV/Webセミナー(3月28日 全国サテライト会場)
織田良正「同時改定に向けた病院の在り方～退院支援、認知症ケアから遠隔診療の役割まで～」
- ・佐賀県看護協会新人看護職員多施設合同フォローアップ研修
(5月18日)
市丸徳美「認知症看護の実際」
- ・認知症サポーター養成講座(5月25日)
石井大輔 光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!」
- ・脳神経外科市民公開講座(5月27日)
廣津辰美「脳神経疾患の治療連携」
- ・佐賀県介護支援専門員研修専門課程I(5月28日)
市丸徳美「認知症に関する事例」
- ・嬉野高校非常勤講師
(5月28日、6月4日・13日・18日・25日、9月11・18日・25日、10月1日)
石井大輔「生活援助技術」
- ・嬉野医療センター附属看護学校講義
(6月5・12・26日、7月24日、9月4・11・18日)
小森ヒロ子「在宅看護論」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義
(6月13・20・27日、7月4・11・18・25日)
本村 幹親「リハビリテーション概論」
- ・介護補助パソコン講習 (6月19日)
光武耕治「介護の基礎知識、介護保険などの制度とサービス」
- ・平成30年度介護労働講習(介護実務者研修)
(6月21日、7月18日・24日・31日)
石井大輔「実践講習:生活支援①・②・④・⑤」
- ・佐賀県立総合看護学院(6月28日)
西山雅則「地域医療と高齢者保健指導」
- ・佐賀県看護協会訪問看護サポートセンター研修会(7月14日)
市丸徳美「認知症の人と家族への支援」
- ・小城市民病院職員研修会(7月18日)
市丸徳美「認知症ケア」
- ・セントケアグループ教育研修～訪問看護 看護小規模多機能
マネジメント研修～(7月20日)
吉井朋代「ターミナルケアの実践」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義
(7月25日、8月1・29日、9月12・19・26日、10月12日)
廣津辰美「人体のしくみと働き・疾病の成り立ち-神経系-」
- ・登米市民病院 院内勉強会(7月27日 宮城県登米市)
織田良正「治し支える医療の実現に向けて～退院支援、認知症ケア、遠隔診療の役割～」
- ・嬉野漢方のつとめ講演(8月2日)
中平圭「ペイン領域の漢方治療」
- ・平成30年度介護労働講習(介護実務者研修)(8月20日)
石井大輔「生活支援技術Ⅱ」
- ・実務者研修(8月22日)
光武耕治 「生活援助技術(排泄介助)」
- ・鹿島商工会議所女性会/医学座学セミナー
(8月24日 鹿島市商工会議所)
織田良正「イキイキ元気に健康に過ごす秘訣」
- ・短期専門講習(8月24日)
石井大輔「介護記録の書き方」
- ・鹿島ロータリークラブ卓話(8月28日 鹿島市商工会議所)
織田良正「週間が変われば、血圧が変わる」
- ・心不全医療連携講演会(8月30日 山口県宇部市)
織田良正「治し支える医療の実現に向けて
～超高齢心不全を通じて考える～」
- ・武雄杵島地区介護医療連携研修会(8月31日)
市丸徳美「認知症の理解と対応」
- ・平成30年度第1回看護職再就業支援研修会講義(9月5日)
山口賢太「医療安全対策～与業業務・転倒転落防止～」
- ・嬉野医療センター附属看護学校講義(9月7・26日)
市丸徳美「老年看護学(高齢者施設における看護、認知症看護)」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義
(9月14・21・28日 10月5・12・19・29日)
久本由香「老年看護学概論」

- ・第三回難聴・めまい懇話会(9月20日)
小宗静男「中耳コレステリン肉芽腫症治療の新戦略」
- ・佐賀大学4年生講義(10月2日)
西山雅則「地域包括ケアと医療」
- ・佐賀大学大学院看護学科講義(10月2日)
市丸徳美「老年看護学特論 認知症看護」
- ・平成30年度 生活習慣病予防事業 運動教室(10月5日)
吉田隆宏「機器を利用した運動について コミュニティーかんらん」
- ・認知症サポーター養成講座(10月7日)
石井大輔 光武耕治「認知症を理解し地域で支えよう!!」
- ・介護送迎スタッフ講習(10月9日)
石井大輔「介護のための基礎知識、制度とサービスなど」
- ・佐賀県看護協会研修会(10月10日)
市丸徳美「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」
- ・平成30年度市民公開講座 褥瘡地域勉強会(10月11日)
福地有沙「ポジショニングについて」
測明子「褥瘡と栄養」
- ・浄林寺 帰敬式(10月14日 浄林寺)
織田良正「鹿島での最期の迎え方 ～こんな幸せな最期～」
- ・介護講座「専門職向け講座」(10月18日)
石井大輔「介護現場での記録と報告」
- ・佐賀県看護協会(10月15日、10月26日)
市丸徳美「看護職員認知症対応力向上研修」
- ・平成30年度 第一回佐賀県認知症対応型サービス事業管理者研修(10月22日)
北川英俊「適切なサービス提供のあり方について」
- ・初任者研修 (10月24日)
光武耕治「人権と尊厳を支える介護」
- ・高齢者スキルアップ・就職促進事業(介護初任者講習)(10月25日)
石井大輔「自立にむけた介護・介護職の役割、専門性和他職種との連携」
- ・佐賀大学附属病院看護部研修会(11月2日)
市丸徳美「認知症の理解と対応」
- ・高齢者スキルアップ・就職促進事業(介護初任者講習)(11月8日)
石井大輔「移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護」
- ・初任者研修(11月9日)
光武耕治「移動に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護」
- ・第18回ゆあい公開セミナー地域嚥下サポート勉強会～多職種から学ぶ摂食嚥下～(11月14日)
中根知子「明日からでもできる嚥下訓練」
- ・平成30年度 糖尿病市民公開講座(11月16日)
山口奏美「血糖を上げにくい食事法～正しい糖質制限～」
本村拓郎「靴と運動」
- ・願行寺 十夜法要(11月23日 願行寺)
織田良正「住み慣れた地で、自分らしく最期まで」
- ・大町町認知症多職種協働研修会(12月19日)
市丸徳美「認知症の理解と対応」
- ・介護相談委員研修会(12月19日)
石井大輔「不適切ケア・身体拘束等について」
- (HTLV-1)Carrier.日本病院総合診療医学会雑誌
2018;14(1):8-10
- ・Akihiko Ogushi, Takashi Sugioka, Masanori Nishiyama: Bright spine. J Gen Fam Med, 2018; 1-2
- ・Masaki Tago, Shun Yamashita, Noriko Matsufuji, Motoshi Fujiwara, Naoko E Katsuki, Masanori Nishiyama, Shu-ichi Yamashita: Ceftriaxone-associated biliary pseudolithiasis in elderly patients. 日本病院総合診療医学会雑誌
2018; 14(6): 575-577
- ・Yoshimasa Oda, Masaki Tago, Naoko E Katsuki, Shu-ichi Yamashita
「Severe duodenal stenosis due to rupture of pancreaticoduodenal artery aneurysm」
Clinical Case Reports. 2018; 00: 1-2.
<https://doi.org/10.1002/ccr3.1755>
- ・織田良正、多胡雅毅、香月尚子、伊山明宏、織田正道
「退院直後の訪問診療・訪問看護によりみられる患者、患者家族の意識の変化」
全日本病院協会雑誌 第29巻1号
- ・谷口賢一郎、乗田浩明「睡眠時無呼吸を有する心不全症例における心不全指標の検討」
心臓2018年 vol.50, No.6.
- ・Fukui S, Yamaguchi K, Nakazono T, Egashira R, Nakamura J, Masuda M, Irie H
「Breast MRI findings of fibroadenoma with hemorrhagic infarction」Breast J 2018; 24(6): 1078-1079.
- ・前田佐知子、平木将紹、中村淳、古賀靖大、野村明成、能城浩和
「バrium腹膜炎に対する直腸切除・結腸単孔式人工肛門造設術後に腹腔鏡下結腸直腸吻合再建術を施行した1例」日本内視鏡外科学会雑誌2018; 23(6): 931-936.
- ・中平圭「線維筋痛症に対する漢方治療で冬季と夏季で使い分けて処方した症例について」
痛みと漢方 Vol.28(2018年5月)
- ・宮崎公志 織田正道「祐愛会織田病院における取り組み～在宅を見据えた取り組みと診療報酬改定への対応～」へるす出版救急医学11月号
- ・市丸徳美「急性期病院での認知症ケアユニットとケアサポートシステム」
患者安全推進ジャーナル別冊「高齢者のリスクマネジメント」
2018年10月、p30 -33
- ・山口賢太、市丸徳美、辻田幸子、下田尚子、伊山明宏「転倒防止におけるDCU(ディメンチア・ケア・ユニット)開設の効果第1報」
公益社団法人 全日本病院協会 全日本病院協会学会誌
第29巻第一号

【論文】

- ・小宗静男「耳硬化症」今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針第4版P206疾患篇/3.耳疾患
- ・小宗静男「乳突洞削開術」耳鼻咽喉・頭頸部手術アトラス上巻第2版P76
- ・多胡雅毅、香月尚子、大石透、藤原元輔、徳島圭宣、中原快明、山下秀一: Recurrent Pneumocystis Pneumonia Developed in a Human T-cell lymphotropic Virus Type-1

ゆうあい研究発表会・忘年会

小規模多機能ホームゆうあい 光武耕治

平成30年12月22日、ゆうあい研究発表会・忘年会が開催されました。

研究発表会では、「業務効率化の継続」をテーマとして、織田病院7題、ゆうあいビレッジ4題、ゆうあいビレッジ安全対策委員会取り組み報告1題、全部で12題の発表がありました。患者様、利用者様へのサービス向上や部署の業務の効率化など、様々な視点から改善に取り組みされており、発表を聞くことで学びを共有できる有意義な時間となりました。また、織田病院4階病棟看護師の筒井久美子さんより看護師特定行為研修と業務の一例についての紹介がありました。普段なかなか知る機会の少ない看護師特定行為について学ぶことができ、今後、看護師としてのスキルアップを目指そうと考えた方も多かったのではないかと思います。特別講演では織田理事長よりSociety5.0について講演をしていただきました。近未来では人間がAI・IoT、ビッグデータなどを有効活用することで、便利で安心した生活が送れる「超スマート社会」になること、そして私達自身もどのように変わっていく必要があるのかということについて示していただきました。来年度は「業務の効率化」見直そう今の業務」のテーマでの活動が行われます。

織田理事長の講演や今回の発表で学んだことを踏まえ、目的を明確にして現在の業務を見直し、患者様・利用者様と職員の満足度向上に繋げるように取り組んでいきたいと考えます。

忘年会の前には、研究発表優秀賞・今年のMVPや特別賞が表彰され、一人ひとりの努力が称えられました。全職員の業務改善やスキルアップに対するモチベーションアップに繋がったのではないかと思います。忘年会は例年通り織田理事長の手品で幕を開け、新人職員の方やゆうあい一座の余興で盛り上がり、色々な部署の方と語らいお互いを知ること、職員同士の結束も一層強くなりました。来年度も皆が切磋琢磨し、更に素晴らしい成果をあげる研究発表・忘年会となることを楽しみにしています。



部活動報告 CLUB Report

ゆうあいミニバレー同好会

手術室 竹内 雄大

2017年6月より活動を開始した「ゆうあいミニバレー同好会」は現在27名で活動を行っています。昨年は鹿島市の大会に3回参加し、優勝とはいきませんでした。怪我なく楽しむことをモットーに楽しく活動しました。先日も塩田町で「西部ブロックソフトバレーボール交流大会」があり、男女混合4人制の2チームで参加してきました。日頃の運動不足が祟り、納得のいく成績は残せませんでした。次の大会ではなんとか上位を狙いたいと思います。現在、メンバーの中にはバレー経験者もいれば、未経験者もたくさんおり、幅広い年齢層でチームを構成しています。体を動かすことでストレス発散や体力づくりの場ともなり、健康維持にも繋がります。仕事や家事などの合間を縫っての活動となりますが、月に2回(第2・4火曜日)19:00-21:00鹿島小学校体育館で行っています。バレーに興味のある方や体を動かしたい方は私たちと一緒に汗を流しませんか!!



編集後記

リハビリテーション科 一ノ瀬 英治

新たな年が始まり、もう一ヶ月が経過しようとしています。今年には新天皇が即位され、新元号を迎える年となります。昭和の終わりに小淵元官房長官が『平成』の文字を掲げられ記者会見をされた当時、中学生だった私は新たな時代の始まりを感じたことを思い出します。おかげさまで『おだびたる』も75号目を迎える事ができ、これまでの皆様の活動やご協力に感謝しています。

当院も時代を過ぎ、この地で110年を迎える事となります。昨年のゆうあい研究発表会の特別講演でも織田理事長が話されていましたが、これから『Society 5.0』のインターネットと様々な物が繋がる世界では、スマートフォンを始めたとした生活環境が一変し、経験したことのない新しい時代を迎える事になるのでしょうか。時代は変わっても、わたしたちの原点である設立理念「悩める者への光明を」をモットーに、2019年も皆でこの地域を支えていける一年になることを期待します。

ホームページQRコード

